

# Vol.165 「10～60代のLGBTQに関する意識」

「LGBTQ」とは、レズビアン(L)、ゲイ(G)、バイセクシュアル(B)、トランスジェンダー(T)、クエスチョニング、クィア(Q)の性的少数派の中で代表的な5つの頭文字を取った総称です。2003年に、「性同一性障害者の性別の取り扱いの特例に関する法律」が制定され、学校における性同一性障害に係る児童生徒への対応についても必要性が認識されるようになり、近年では、性的少数者(LGBTQ)に配慮した学校づくりが広がっています。今回は、10～60代を対象に、「LGBTQ」の認知度や学生時代の「LGBTQ」の当事者の方の有無、「LGBTQ」の当事者の方が学生時代に困っていたことについて調査しました。



## 調査概要

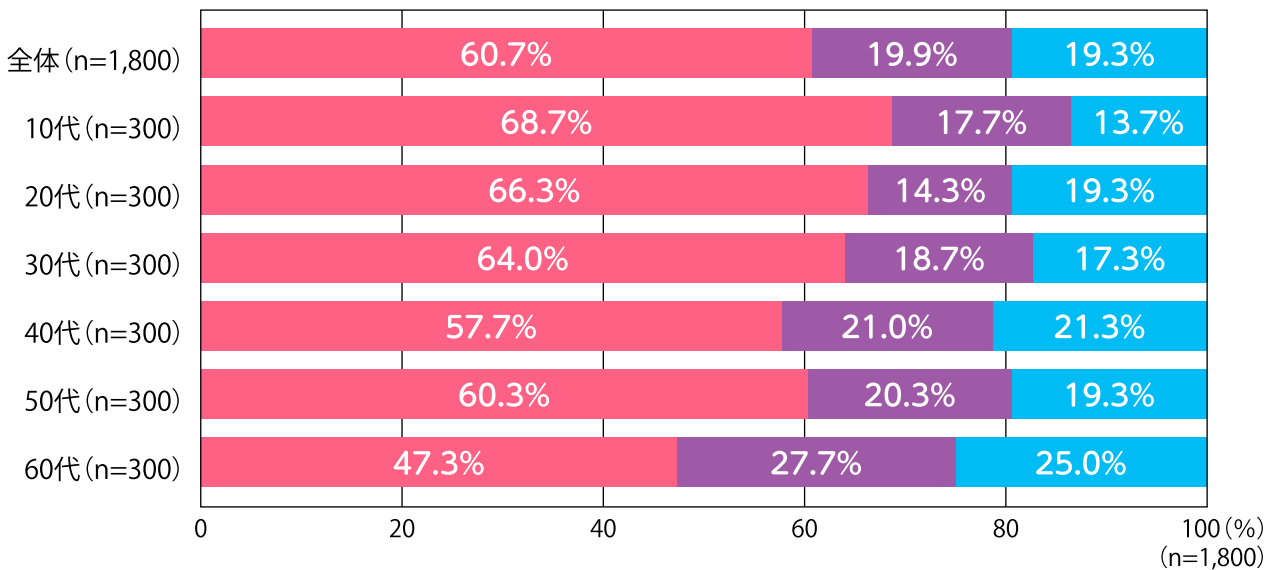
調査対象：全国の10～60代の男女 1,800人

調査方法：インターネットリサーチ

実施時期：2019年7月

## Q 1. 「LGBTQ」という言葉の認知度

「LGBTQ」という言葉については、10～60代の各年代全体平均では、「知っている」(60.7%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(19.9%)を合わせると、約8割が認知していると回答していました。年代別にみると、10代は「知っている」(68.7%)という回答が最も多く、60代は「知っている」(47.3%)という回答が半数を下回りました。



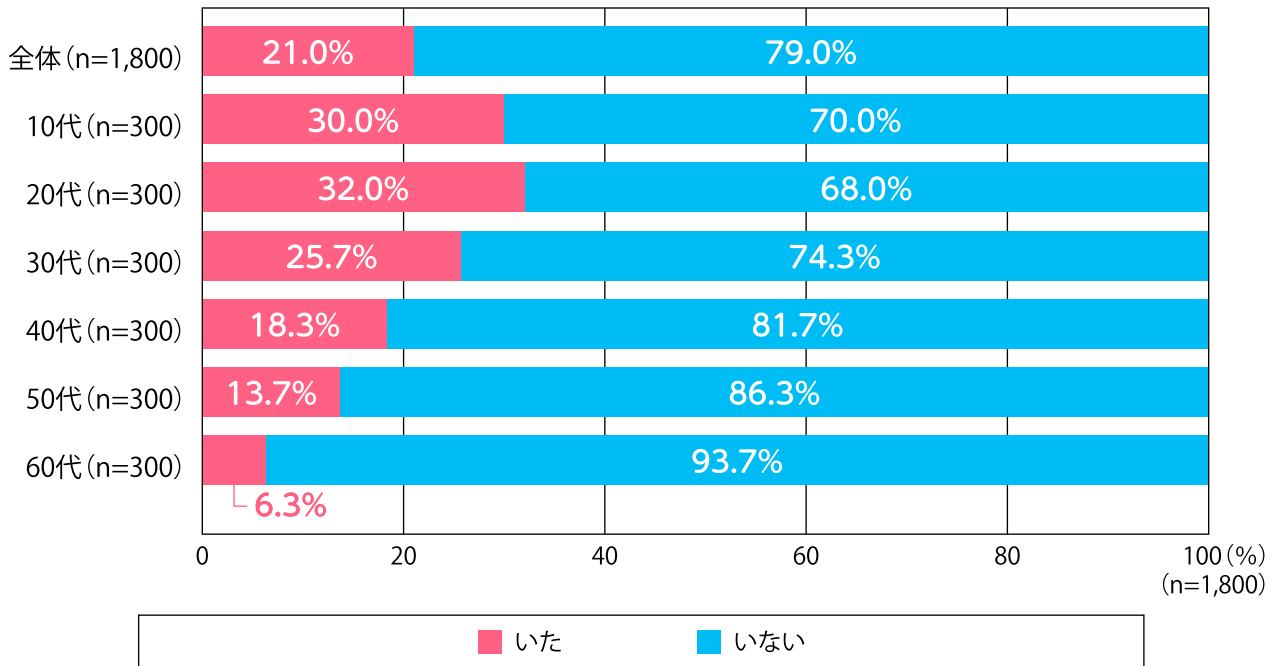
■ 知っている ■ 聞いたことはあるが内容は知らない ■ 全く知らない

※グラフの数字は、小数点第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならない場合があります。

【図1】 あなたは、「LGBTQ」という言葉を知っていますか。(単数回答)

## Q 2. 学生時代の「LGBTQ」の当事者の方の有無

「LGBTQ」の当事者の方の有無については、全体平均では「いた」(21.0%)と、5人に1人が学生時代に自身の周囲(または自分自身)に、「LGBTQ」の当事者の方がいたと回答していました。最も多い年代は、20代の「いた」(32.0%)であり、最も少ない年代は60代の「いた」(6.3%)という状況で、年代が高くなるほど当事者の方の存在の認識は低くなる傾向が見られました。



【図2】 学生時代に、あなたの周囲(または自分自身)には、「LGBTQ」の当事者の方はいらっしゃいましたか。(単数回答)

### Q 3. 「LGBTQ」の当事者の方が学生時代に困っていたこと

「LGBTQ」の当事者の方が学生時代に困っていたことは、「トイレ」、「体育の時の着替えやプールの時間」、「服装」など、目で見てわかる物理的なことがあげられました。また、「周りと自分が違うこと」、「恋愛」、「誰にも言えないこと」、「周りの理解が得られないこと」など、精神的な苦しみも困っていたこととしてあげられました。

- トイレ。
- 体育の時の着替えやプールの時間。
- 服装。
- スカートを履きたくないのに、無理に履かされていた。
- 周りと自分が違うこと。
- 恋愛。
- カミングアウトできずに苦しんでいた様子だった。
- 誰にも言えないこと。
- 相談できないこと。
- 差別やいじめがあった。
- 偏見の目で見られる。
- 人目を気にしていた。
- 周りの理解が得られないこと。

(n=1,800)

【表1】 「LGBTQ」の当事者の方が学生時代に困っていたことは、何ですか。(自由回答)

 **まとめ**

文部科学省が2014年に公表した調査結果では、性同一性障害の児童生徒606人のうち、43.1%が「隠している」と回答し、周囲に知られないよう学校生活を送っているようです。

今回、全国の10～60代を対象に「LGBTQ」の認知度を調べたところ、言葉の認知度は各年代全体平均では、「LGBTQ」という言葉を「知っている」(60.7%)、「聞いたことはあるが内容は知らない」(19.9%)をあわせると、約8割が認知していて、認知度は高いという結果でした。また、「LGBTQ」の当事者の方の学生時代の存在認識の有無については、全体平均では「いた」(21.0%)と、5人に1人が学生時代に自身の周囲(または自分自身)に、「LGBTQ」の当事者の方がいたと回答しています。しかし、この結果は年代によって大きな開きがあり、最も多い年代は、20代の「いた」(32.0%)であり、最も少ない年代は60代の「いた」(6.3%)という状況で、年代が高くなるほど当事者の存在の認識は低くなる傾向が見られます。その「LGBTQ」の当事者の方が学生時代に困っていたことは、「トイレ」、「体育の時の着替えやプールの時間」、「服装」、「周り自分と違うこと」、「恋愛」、「誰にも言えないこと」、「周りの理解が得られないこと」など、物理的な面と精神的な面の両方が存在しています。

文部科学省が「性同一性障害に係る児童生徒に対するきめ細やかな対応の実施などについて」を通知したことにより、男女別だけでなく誰でも使えるトイレを設けたり、制服のデザインや校則を改訂したりする学校が増えつつあります。社会・学校においても「LGBTQ」への理解と取り組みが自然に進むことが期待されています。

毎月最終  
火曜日  
更新

**カンコーホームルーム ～学生を読み解くデータ集～**

カンコーホームルームは、学生を取り巻く環境や子どもたちの意識・ライフスタイルについて、多角的に調査・分析し、その結果をお届けしています。  
ホームページでは、今回ご紹介した調査データ以外にも様々な情報を掲載しております。

**検索**<http://kanko-gakuseifuku.co.jp>